



出席者による意見を述べる

同、だれでも発言の権利があるというふうに御理解いただきたい、よろしくお願います。まず古関先生いかがですか。

古関

子供たちが家庭で親と話し合いができるふんい気をせひつうて行きたいと思えます。親と子がなかなか話せない。親の方もいそがしさにかまけて、子供と話す時間が少ない。ある調査によると、親子がしゃべったのは三分二十秒。しかもその中味は、調べてみると大部分がごととであつたという調査があります。ごととではなしに、学校で起こつたこと、友達のことの話を聞いてやる。そういう場をつくると同時に、そういう話し合いができるふんい気を待つて見・家庭といふものを第

一にお願いしたいと思えます。第二番目には、親は子供の生活をつかんでほしい。案外その子供がスケート場に行つて何をしているか、むこうには監視の人もいるだろうし、学校では親がつきそつて行かなければ許しませんなどという、そんなきついなことを言わないでほしいという。ところが子供はスケートやつてる時よりも、帰りの方が友人関係などで問題になる。買い食いをしたり、金が足りなくなつて借りたりします。あるいはサイクリングに行つた子供に聞きますと、どこまで行つたのか親は知らないが、実は福島から自転車で飯野の先まで行つてゐる。それが先生の家に遊びに立ち寄つたためにわかつた。そういうように、子供の実態は親はなかなかつかめないでゐる。これは一例にすぎない。それから第三番目には、子供のしつけについてはもつと自信をもつてもらいたい。今まであまやかしか、やつてはならないこととはならないと徹底しようという意見が出ましたが、親は親なりに、しつけについてこれだけは自分の家ではしっかりやるんだ、まあ「最善を尽くせ」でもいいし、何かそういう家庭で家風とまでいかななくても、やはり自信を持つてしつけることが必要です。またいろいろな最近の調査によると、見なれないものを持つてゐると「それはどこから持つてきたか」「友達から借りた」「盗んできてゐるにもかかわらず、親がまんまとだまされてしまふ。そしてま

た強くいうと反抗することを恐れてついついあまやかしてしまふ。こういう例が非常に多いように思ふ。こういうことが調査などにも出てゐます。第四番目には、学校と家庭の積極的な連絡について、これは学校側でも努力しなければなりません、親さんの方からぜひお願いしたい。学校でもいろいろ機会を設定しますが、出席してほしい家庭は出て来ない。こういう例が実に多いわけで、何か家庭に起こつたらすぐに学校に連絡をする。学校の計画に応じて出て、学校の教育方針と家庭とが一体となつて指導できるようにしていきたいものと思ひます。

司会

家庭に何を望むか、ほかに御発言のかたいらつしやいませんか。遠藤先生いかがですか。先生がたの方から家庭にどうあつてほしいとお考えですか。

遠藤

今古関先生からお話があつて尽きたという感じでありますが、ただその中で、やつぱり親さんがたは私どもにいろいろなことを隠しますね。夕べ家に集まつて酒を飲んだ、たばこを吸つたといつても、こちらで事実を押さえても聞かないと言つてくれなない。そういう点で学校をもう少し信頼してほしいという事です。藤井先生もおられまして中・高との連絡のパイプはよく通じてゐるわけですが、いちいちごく日常の細かい点まで知らせるわけでもないですよ。それで親さ

んは学校を信頼して知らせてほしいと思ふわけです。

司会

それでは出ました意見をトピック的にくり返してみますと、家庭で親とじゅうぶん話し合いのできるふんい気を作つてほしい、ことだけでなくということです。それから子供の生活をつかんでほしい。自分の子供の生活を知らないでゐる親さんが多いのではないかと。

それから第三番目、自信をもつた家風づくりとでも申しましょうか、そうしたものが大事ではないか、ぜひ家庭でもお願いをしたい。第四番目、学校と家庭の緊密な連絡、当然のことではございますが御指摘がありました。第五番目、学校を信頼して緊密な連絡をとつてほしいということが、御発言の中から拾ひ出されたものでございます。これですべてというわけではございませんが、復習の意味で申し上げます。それでは第三点、地域社会即ち我々は何をなすべきか、これも先ほど同様皆さんに発言権がございますので、我々は何をなすべきかに移ります。県警の小野課長さんいかがでしょうか。

小野

家庭と学校の問題について一言申し上げたいと思ひます。少年非行というのは、ある日突然出てくるというものはなく何か前兆があるわけです。これは今度の須賀川の少年の場合も、前に異常な行動が二、三あつたということとであります。それは学校の先生によ